

## 討 論

### 初等中等教育における情報倫理教育の確立を目指して

(問題提起)

江澤義典  
ezawa@res.kutc.kansai-u.ac.jp  
関西大学総合情報学部

中條道雄  
chujo@ksc.kwansei.ac.jp  
関西学院大学総合政策学部

武井恵雄  
takei@ics.teikyo-u.ac.jp  
帝京大学理工学部情報科学科

(司会)

小林 修  
kobayashi-osamu@personal.email.ne.jp

初等中等教育における情報教育の本格的な開始にあたって、情報教育における倫理教育の必要性が論じられているが、何が情報倫理教育であり、どうやってその教育を実施するのかについては、学問的な検討が未だしである。情報倫理とその教育について、多面的な検討を行う目的で、このパネル討論会を開催する。

## Panel Discussion

### Toward the Establishment of the Ethical Education in Information Study of the Primary and Secondary Education

(Panelists)

Yoshinori Ezawa  
ezawa@res.kutc.kansai-u.ac.jp  
Faculty of Informatics  
of  
Kansai University

Michio Chujo  
chujo@ksc.kwansei.ac.jp  
School of Policy Studies,  
Kwansei Gakuin University

Shigeo Takei  
takei@ics.teikyo-u.ac.jp  
School of Science and Engineering,  
Teikyo University

(Moderator)

Osamu Kobayashi  
kobayashi-osamu@personal.email.ne.jp

The ethical side of the "Information Study" of primary and secondary education will be discussed. The significance of ethics in the education of Information Study is pointed out by everyone and everywhere, but it is quite difficult to talk scientifically what the ethics of Information Study is, and how to teach the ethics to pupils. In this panel discussion various aspects of the network ethics -- such as legal, technical and cognitive communicating aspects will be discussed by the panelists and the participants. This panel discussion is held as a joint study of IPSJ-CE Working Group and the Japan Association of Network Literacy.

2003年に開始が決まった高校の新教科『情報』をはじめ、初等中等教育における情報教育の本格化に際して、「情報倫理教育に重点をおいてほしい」という要望をよく聞く。大学教育においても、この「情報倫理教育の必要性」という言葉を聞くことがある。しかし、情報倫理とは何だろうか？

たとえば、情報倫理という言葉や、情報モラルと置き換えても良いと考える人と、そうではないと考える人がいる。倫理という言葉の根源的な意味から出発して、情報倫理という言葉や言葉を排除したいとする意見もある。情報モラルという言葉にしても、そういった特別のものがあると考えする必要はなく、社会的存在としての人間のコミュニケーションの在り方論に過ぎないと考えられる立場もある。

しかし、情報科学／工学や情報学、あるいは情報機器の正しい扱い方に加えて、情報教育の内容として、それら以外の何かが必要であろうことは確かである。

情報処理学会初等中等情報教育委員会（委員長：大岩元慶應義塾大学教授）では、現在、高校の新教科『情報』の教育内容の検討を行っている。“それを実施に移したとすると仮定した場合に教えることになる内容を盛り込んだもの”を具体的に示すために、仮称「モデル教科書」というものを作成中である。その作業中、執筆に当たっているメンバーから、「情報倫理といわれるものにつ

いて、議論したい、議論する必要がある」という声が上がった。

それならば、日本情報倫理協会（会長：江澤義典関西大学教授）が関西を拠点に活発な活動をしているので、「コンピュータと教育」研究会が関西学院大学で開催されるのを機会に、共同で研究会を開き、且つ、討論を行なったらどうだろう、ということになり、このパネル討論会が実現した。

この討論においては、指名されたパネリストが問題提起者として、問題点を述べることで開始するが、司会者が十分に目配りをして、研究会参加者による「討論」を十分に行うことを目的としている。その際、性急な結論や安易な同意より、深い洞察による問題点の発掘の方がずっとずっと意義深い——少なくとも、今はそういう相(phase)にあるものと考えている。

このような討論は、この場だけで終るものではなく、ネットワーク会議に引き継がれる必要があるし、また、オフラインの——というか、顔を合わせたの会議や討論会が、ここかしこで開かれなければならないと考えている。何故なら、このテーマは研究対象であると同時に、間もなくすぐに、教育の場で実際に展開されなければならない。情報教育に関与する教員の多くの人々が、この問題について適切な問題意識を持って臨まなければならないからである。パネリスト、フロアの別なく、多面的な切り口での討論が期待される。